

防災教育チャレンジプラン

(2011・2012年度 内閣府)



地域との連携を深める防災教育公開事業 (平成23年度 千葉県)

千葉県立東金特別支援学校

平成23年度

防災発信・防災交流～北之幸谷から二市四町へ～

平成24年度

**防災コミュニティ&コミュニケーション ～北之幸谷から
山武郡市へ「防災ユニバーサルねっと」を広げよう～**



自立をめざして、かがやく瞳、ひかる汗



校歌♪

「大空まで響く 明るい
笑い声は 輝く目
光る汗 ワッハッハ」
作詞・作曲 はなわ

【本校の概要 (特色)】

知的障害を対象とした初の県立学校として昭和48年4月に開校し、創立40周年を迎えた。県内知的障害特別支援学校では唯一の寄宿舎設置校である。学区は二市四町（東金市、山武市、芝山町、横芝光町、九十九里町、大網白里町 ※大網白里町は平成25年1月1日より大網白里市へ）であり、海まで約8km、海拔約8m、平野部であり宮城県名取市と似た地形である。平成24年度の児童生徒数は、小学部39名、中学部36名、高等部85名、合計160名。知的障害を中心に、自閉症、肢体不自由、聴覚障害など他の障害を併せ持つ児童生徒の、多様な教育的ニーズをふまえて「自立をめざして 輝く瞳 光る汗」を合い言葉に、職員が一丸となって子どもたちの教育に全力を尽くしている。

【3月11日 地震発生後の様子】



地震発生時は、寄宿舎生徒と部活動生徒が学校で活動していた。また、スクールバスや自転車、JR利用の自主通学生徒等の下校時間と重なった。下校途中の生徒を連れ戻し、体育館に避難したが大きな余震があり、グラウンドへ避難した。テントを張り、車のライトで照らし、火を焚いて寒さをしのぎながら保護者への引き渡しを行った。沿岸部で家屋が被災し、避難している児童生徒もいたため、全児童生徒の安否確認がとれたのは、翌日となった。

平成 23～24 年度 千葉県立東金特別支援学校 防災教育の取り組み

プランの目的

- 授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探り、児童生徒の防災意識を高める。(自助)
- 北之幸谷区自治会やPTAと協力し、防災をテーマとした地域との交流を行い、地域や家庭と一体となって防災に対する意識を高める。(共助)
- 「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて、講演会や防災安全マップの作成、ネットワーク会議等を通して、地域との情報の共有を図り連携を深める。(公助)

本校の実践と主な取り組み

(1) 授業を通して

- 【23年度】美術（防災マルチパーテーションの作成）
国語・算数や保健体育（パーテーションの活用）
作業学習（防災リュックや節電対策製品の作成）
家庭科（缶詰や保存食等を活用しての調理実習）
生活単元学習（災害に備えよう～自分の身を守るためにできること～）
- 【24年度】美術（防災ピクトグラムの作成）生活単元学習（固形燃料づくり 防災キャンドル）
特別活動（自主通学生徒集会 災害時のコミュニケーション）音楽（しあわせ運べるように）



(2) 児童生徒会活動を通して

- 【23年度】被災地への支援で未使用のタオル集め PTAと協力してシンポジウムでの義援金集め
防災安全マップの作成 地域のボランティア部会との炊き出し体験（8月）
- 【24年度】全校集会（防災集会として地域の長寿会を招待10月） 防災安全マップの作成で警察署と長寿会訪問（8月） 被災地訪問①（旭市飯岡地区 小学部、高等部5名 8月）
被災地訪問②（宮城県石巻市 岩手県宮古市・釜石市・花巻市 高等部2名 7月）

(3) 地域との合同防災行事を通して

- 【23年度】防災シンポジウム（8月：東金文化会館） 夜間合同防災訓練（9月：寄宿舍）
地域との合同防災訓練（10月：体育館及び各教室） 防災教育講演会（10月：体育館）
防災教育公開授業＜選択教科美術 自主通学生徒集会＞（10月：体育館及び教室）
地域（消防団、子ども会）、PTAと合同防災訓練（1月：グラウンド及び体育館）
- 【24年度】防災教育講演会（8月：本校） 夜間の防災をテーマとした地域との交流（9月：寄宿舍）
PTAが主催となった防災をテーマとした地域との交流（8月：本校グラウンド等 炊き出し 避難所開設 消防団操法訓練）
北之幸谷区長寿会と旭市仮設住宅シスターズと高等部との交流（12月：北之幸谷区公民館）

(4) ネットワーク会議を通して

- 【23年度】防災教育担当者会議（5月、7月、10月、2月）
- 【24年度】東金地域防災教育ネットワーク会議（8月、1月）災害時要援護者ネットワーク会議（5回）
災害時要援護者の避難を考える講演会とグループワーク（10月：山武健康福祉センター）